

---

## 平成20年度予算第二特別委員会質問要旨

---

○ 局別審査 平成20年3月6日

質問者（質問順）

- 1 井上大右委員（民ヨコ）
- 2 小幡正雄委員（民ヨコ）
- 3 宇都宮充子委員（無所ク）
- 4 白井正子委員（共産党）
- 5 関勝則委員（自民党）
- 6 古川直季委員（自民党）
- 7 中山大輔委員（民主党）
- 8 市野太郎委員（民主党）
- 9 加納重雄委員（公明党）

環境創造局

# 局 別 審 査

1 井上大右委員（民ヨコ）
---------------

## 1 都市農業の振興について

### （1）地産地消と市内農産物のPR

- ア 市内での地産地消の現状はどうか。
- イ 市民への直売所情報の提供や直売農家への指導はどう取り組んでいるのか。
- ウ 市内農産物のPRはどのように行っているのか。
- エ 学校給食への供給は今後どのように進めていくのか。

### （2）農業経営の支援

- ア 浜なしなど市内の主な農産物の生産状況と10アール当たりの収入はどのくらいか。
- イ 市内の販売農家の平均経営耕地面積はいくつか。
- ウ 全国と神奈川県農業所得平均はそれぞれいくらか、また農家総所得に占める割合はどのくらいか。
- エ 農業経営を強化するためにはどのような対策を行っていくのか。

## 2 廃食用油のバイオディーゼル燃料活用事業について

- （1）学校など市の施設から排出される廃食用油は、現在どのように処理されているのか。
- （2）廃食用油のバイオディーゼル燃料活用事業の意義は何か、改めて伺いたい。
- （3）どのくらいの量の回収・精製を見込んでいるのか。また、それによる環境改善効果はどれくらいか。
- （4）本事業が成功するためのポイントは何か。
- （5）バイオディーゼル燃料の普及拡大に向けて、今後どのように取り組んで行くのか。

## 2 小幡正雄委員（民ヨコ）

### 1 脱温暖化行動方針（CO-DO30）について

- (1) 現行の「横浜市地球温暖化対策地域推進計画」の内容・目標と取組結果はどのような結果であったのか。また、その成果をどのように評価しているのか。
- (2) G30の取組によるCO2削減量及び削減分は、主にプラスチックの資源化によるものと考えられるが、CO2削減量を原油量で換算するとどの位か。また、CO2の削減量についてどのように評価しているのか。
- (3) 「市民一人あたりの温室効果ガス削減量を30%削減して2025年度には4.02トンにする」と記載されているが、大変分かりにくい。もっと分かりやすく表現するとどうなるのか。
- (4) 「脱温暖化行動方針（CO-DO30）」での施策展開にあたっての基本的な考え方と特徴は何か、阿部副市長に伺いたい。

### 2 再生可能エネルギーの利用促進について

- (1) 横浜市内におけるエネルギー消費と再生エネルギーの導入状況について。
- (2) 本市全体のCO2排出量をこれまでの実績から考えて約2,000万トンとすると、これを吸収するために森林は何ヘクタール必要か。また、このCO2の排出量は太陽光発電では何キロワットに相当し、また、1軒（戸）3キロワットとすると何軒（戸）にあたるか。
- (3) 再生可能エネルギーの利用量を10倍にする目標を実現するために、どのような取組を進めるのか。

### 3 太陽エネルギーの利用促進への積極的な取組について

- (1) CO-DO30の方針の中で、太陽光発電と太陽熱利用など太陽エネルギーの利用について、積極的に取り組む旨の打ち出しをしているが、そのねらいは何か。
- (2) 本市の住宅用太陽光発電システムの設置補助事業について、19年度の申請状況を加えたこれまでの実績、及び温室効果ガスの削減効果について。

- (3) 「東京都再生可能エネルギー戦略」では、再生可能エネルギーの利用目標をどのように定めているのか。
- (4) この目標を達成するために、どのような取組を進めようとしているのか。
- (5) ヨーロッパの先進国では太陽光発電の設置が大幅に増加している理由は何か。
- (6) 本市の20年度の具体的な目標補助件数が400件であるが、その理由は何か。
- (7) 普及拡大に向けた今後の取組について、阿部副市長の考えを伺いたい。

#### 4 日本をリードする地球温暖化対策について

- (1) 地球温暖化対策本部を立ち上げるが、その組織目標と事業内容について。
- (2) 政府の地球温暖化防止に関して首相官邸での懇談会の内容など事実関係についてどの程度把握しているのか。
- (3) 「環境モデル都市」に本市として立候補するべきであると考えているが、阿部副市長の見解や決意伺いたい。

### 3 宇都宮 充 子 委員（無所ク）

#### 1 温暖化対策について

(1) 横浜・地域エネルギー施策基本構想において、再生可能エネルギーの位置づけはどうか。

(2) 太陽熱利用の促進

ア 太陽熱利用システムの普及状況はどのくらいか。

イ 太陽熱の利用を促進するねらいは何か。

ウ その効果はどのくらいか。

エ 普及に向けた今後の取組について。

(要望) 公共施設、福祉施設、事業所、個人宅など広く利用促進に取り組んでいただくよう要望します。

(3) 横浜型カーボンオフセットの普及促進

ア カーボンオフセットを実施するとは、どのようなことをいうのか。

イ カーボンオフセットを実施する際の課題は何か。

ウ まず市が率先して導入すべきと考えるがどうか。

エ カーボンオフセットの普及拡大に向けて、今後どのように取り組んで行くのか。

(要望) カーボンオフセットの普及拡大についてしっかりと成果を上げることを要望します。

(4) 地域における活発な脱温暖化行動を活性化するため、どのような具体的な提案をしようとしているのか。

#### 2 緑の保全について

(1) 農地の保全

ア 農地面積の推移を5年前と比較して、市域全体と市街化区域、市外化調整区域別に伺いたい。

イ 遊休農地の現状と対策について。

ウ 新規就農促進事業の20年度の内容と今後の進め方について。

エ とつかりフレッシュファーム事業の特色と今後の展開について。

(2) 樹林地の保全

ア 中期計画における特別緑地保全地区の目標値はどのようになっているのか。また、その設定根拠はどうか。

イ 主な緑地保全制度の18年度までの実績はどうか。

ウ 19年度に、いくつかの緑地保全制度の改正を行ったと聞いているが、その理由は何か。また、今後、指定を推進する上での課題は何か。

(3) 昨年12月に「緑の保全・創造に向けた課税自主権活用に関する中間報告」が発表されたが、緑の保全・創造について現段階でどのような議論がされているのか。また、行政運営調整局と環境創造局の両方を所管する副市長として、緑の保全についての副市長の見解を伺いたい。

(要望) 出来る限りの方策を持って、緑の保全に努めていただくことを要望します。

#### 4 白井正子委員（共産党）

##### 1 脱温暖化行動方針（CO-DO30）について

- (1) これまで様々な温暖化対策を進めてきているが、排出量は依然として目標に達するどころか増加しているのはなぜか、改めて理由を伺います。
  - (2) CO-DO30の策定された中で地域推進計画の目標は継続されるのか。
  - (3) 目標達成には厳しい状況であるという現実、国の対策の遅れにも大いに関係しているものであるが、現在の国の動向についてどう認識しているのか。
  - (4) CO-DO30の策定にあたって、推進計画の実施状況についてどのように検証するのか、また、検証結果をどのように活かすかが鍵となるが、計画で掲げる目標達成できなかったのはなぜか、また行政として何が不足していたのかどのように検証したのか。
- (要望) 実行計画を作るうえで、行政として何かしらの規制を作る必要があると考える。これら仕組みをつくるよう要望します。

##### 2 瀬上の森・(仮称) 上郷開発事業の環境アセスメントについて

- (1) 環境影響評価書に対し、主にどのような市民の意見が寄せられたのか。
- (2) 審査会答申と市長審査書の関係はどうなっているのか。
- (3) 市長審査書において、市の見解として、さらに環境への配慮を求める意見を盛り込むべきであったと考えるかどうか。市長の意見を付けなかったのはなぜか。
- (4) 市長審査書どおりに事業者が行動しているかどうかを市がチェックして踏み込んだ指導ができるよう、仕組みを局がつくるべきと考えるかどうか。

##### 3 公園の遊具リニューアルについて

- (1) 危険なまま放置されていた遊具の数とその対応について。
- (2) 危険な状態となっていた遊具はあったのか。
- (3) 市内全体で撤去された遊具は撤去されたままなのか。
- (4) 撤去された遊具を戻す際、どのようにして市民意見を反映し仕組みづくりを行って

いくのか。

(要望) 市民の意見を取り入れて遊具の整備を進めていくよう要望します。



1 20年度予算の重点施策について

- (1) 20年度予算を編成するにあたっての基本的な考え方と重点的に取り組む課題について。
- (2) 本市全体で地球温暖化対策に計上した予算額と、その内容について。
- (3) 地球温暖化対策事業本部を設置するねらいについて、阿部副市長に伺いたい。
- (4) 財政的に厳しい中、局予算を編成するにあたりどのような工夫をしたのか。

2 自動車環境対策について

- (1) 低公害車の普及を進めるにあたり、どのような施策を行っているのか。
- (2) 台数の多い乗用車など小型の低公害車普及に対する支援について、どのように考えているのか。
- (3) 電気自動車と天然ガス自動車の19年度助成実績と、来年度の予定はどうか。
- (4) 「エコドライブ」することで、どのような効果があるのか。
- (5) 19年度に行った普及への取組内容と、市民の反応はどうか。
- (6) エコドライブ支援機能を持つカーナビゲーションとは、どのようなものか。また、どのように活用していくのか。
- (7) 「エコドライブ」の普及について、今後、どのような取組を考えているのか。

3 金沢市民の森について

- (1) 金沢市民の森の指定に向けた取組状況はどうか。
- (2) 京急電鉄とタイアップした事業はどのような内容か。
- (3) 今後さらに市民が利用しやすい整備が必要と考えるが、整備の予定はどうか。
- (4) 今後、京急電鉄と市民と行政の更なる協働の取組が望まれるがどうか。

4 みどりの保全施策の抜本的強化

- (1) 樹林地の保全に向けた指定推進と買入れ体制の強化。

ア みどりアップ計画の中で今、最も重点的に行うべき取組についての考え方を阿部副市長に伺いたい。

イ 特別緑地保全地区のこれまでの指定実績と最近3ヵ年の新規指定の状況、及び20年度の見込みについて。

ウ 樹林地の土地所有者が抱えている課題をどのように認識しているのか。

エ 樹林地保全のため、市による買入が必要と考えるが、これまで特別緑地保全地区においてどのくらい買入れたのか。また、現在はどのような場合に買入を行っているのか。

オ 特別緑地保全地区などの施策に土地所有者の協力を得るためにも、さらに市の指定推進と買入れ体制を強化してはどうか。

(要望) これまで貴重な緑を守り、育むために努力してきた土地所有者の苦勞に応えるため、また、市民の付託に応えるため、実効性のある体制で、精力的に取り組まれるよう強く要望します。

## (2) 市民との協働による維持管理のしくみ強化

ア 20年度予算における緑地管理事業の内容について。

イ 他都市ではどのような施策を進めているのか。

ウ 本市においては、今後どのような維持管理のしくみの検討を進めるのか。

## (3) よこはま協働の森基金制度の強化。

ア 制度の概要と基金の積み立てや活用実績について。

イ これまでに市民などから制度要望が出されているのか。また、今後どのように改善していくのか。

## (4) みどりアップ施策の強化

今後、一層の施策強化とあわせて、さまざまな機会に市民の声を反映させたり、市民意識の高揚を図る取組も必要と思うがどうか。

## 5 公園施設における指定管理者制度

(1) 指定管理者の事業評価の実施方法について。

(2) 事業評価の結果について。

(3) 20年度末で指定期限を迎える公園は何公園あるのか。

(4) 20年度の公募にあたり、どのような課題があるのか。

## 6 ニュースポーツができる公園について

(1) 公園におけるバスケットゴールの設置状況について。

(2) バスケットゴールを設置する上での課題や条件について。

(3) 新横浜公園には、どのようなスポーツ施設があるのか。

(4) 新横浜公園のニュースポーツ施設の整備状況と20年度の整備予定について。

(5) 今後のニュースポーツ施設の整備予定について。

(要望) 計画地において、ニュースポーツ施設の整備を引き続き推進することはもちろんですが、多目的広場などが設けられている既存の公園においても、条件が揃い、地域の合意が得られる場所には、積極的に取り組んで行くこと。特に磯子区を中心とした南部において取組を進めていただけるよう要望します。

## 7 下水道の地震対策について

(1) 下水道施設の地震対策の基本的な考え方はどうか。

(2) 本市の防災計画において震災時における地域防災拠点のトイレ対策はどのようになっているのか。

(3) 現行計画のうち衛生的な仮設水洗トイレを設置する場合の課題は何か。また、それについて20年度はどう取り組むのか。

(4) 中期計画で地域防災拠点に通じる下水道管の耐震化を進めることとしているが、20年度にはどこまで進むのか。

(5) 水再生センターの耐震化をどのように進めるのか。また、20年度はどう取り組むのか。

## 8 浸水対策と河川環境整備について

(1) 20年度予算では、どのような浸水対策事業を実施していくのか。

(2) 河川環境整備に関する基本的な考え方について。

(3) 20年度予算では、具体的にどのような河川環境整備を実施していくのか。

(4) 大岡川の河川再生事業の整備状況について。

(5) 合流式下水道の改善をどのように進めているのか。また、整備状況を伺いたい。

(6) 大岡川流域において、合流式下水道の改善に向けた20年度の取組について。

(要望) 堀割川は、磯子区まちづくり方針の中でも、恵まれた水と緑の資源を活かし、「水と緑の拠点・軸」を形成する貴重な水辺と位置づけられており、将来的に、更に良好な環境としていくことを要望します。

1 環境活動における地域での連携について

- (1) 環境教育アクションプランにおける若葉台地区の取組の位置づけについて。
- (2) 若葉台地区における環境活動の取組内容について。
- (3) 若葉台地区における成果についてどのように捉えているのか。
- (4) 若葉台地区における今後の展開について。
- (5) 今後、地域一体型のモデル事業をどのように全市に広めていくのか。

2 事業者の温暖化対策の推進について

- (1) 事業者の温暖化対策を推進するための考え方について。
- (2) 地球温暖化対策計画書制度の対象となっている事業所の数はいくつか。また、対象となる事業所が排出する温室効果ガスは、事業所全体から排出される量のどのくらいを占めているのか。
- (3) 15年度に導入した計画書制度の取組をどのように評価しているのか。
- (4) 省エネに関する専門家の協力を得て計画書制度の運用・指導を強化するとのことであるが、ねらいは何か。
- (5) 業務部門の対策をどのように考えているのか。

3 風力発電事業について

- (1) ハマウイングのこれまでの発電状況はどうか。また、発電した電力はどのように利用されているのか。
- (2) ハマウイング完成後、どのような普及啓発を行ってきたのか。
- (3) 見学した市民の声はどのようなものが多いのか。
- (4) 「ハマ債風車」では、金利軽減分を緑化事業へ充てるとされていたが、どのような活用がなされるのか。
- (5) ハマウイング建設事業に実際に携わった職員を教えていただきたい。さらに、風力発電をもう一基建設してはどうか。

#### 4 屋上及び壁面緑化への助成について

- (1) 屋上及び壁面緑化への助成制度の内容はどのようなものか。
- (2) これまでの助成実績はどのようなか。
- (3) 19年度に助成実績が伸びた理由をどのように考えているのか。
- (4) 助成事業の20年度の進め方について。
- (5) これまでの公共施設の屋上及び壁面緑化の状況はどうか。
- (6) 屋上や壁面緑化のモデル事例となるよう、今後事業費を集中的に投入するような考えはないのか。阿部副市長に伺いたい。

#### 5 市民協働による間伐材活用促進事業について

- (1) 樹林地の管理を行う森づくりボランティア団体は、どのような活動を行っているのか。
- (2) 市民と協働して樹林地の管理を進めるための課題は何か。
- (3) 市民協働による間伐材活用促進事業の内容は何か。

#### 6 上郷開発事業について

- (1) 環境アセスメントの審査意見が、従来より踏み込んだ内容となった趣旨は何か。
  - (2) 事業計画では、どのくらいの緑を保全する計画となっているのか。
  - (3) この事業計画区域は「市民の森」などの緑の担保施策が講じられている区域なのか。
  - (4) 旧金沢市民の森の一部を取得するのはどのような考え方なのか。
  - (5) 仮に、開発事業者が環境アセスメント審査書に基づき、環境配慮として更なる緑の保全に協力するとした場合、環境創造局としてはどのような対応が出来るのか。
- (要望) 開発事業者、行政、そしてトラスト的な負担も辞さないという市民。こうした関係者が十分な調整を行い、一定の解決が図られるよう要望します。

#### 7 農作物の収穫体験ができる公園の整備について

- (1) 市内での農作物の収穫体験ができる公園数及び利用実績について。
- (2) 最近、他都市でも農作物の収穫体験ができる公園など整備事例が見受けられるが、どのような事例があるのか。

(3) 今後、農作物の収穫等ができる公園をさらに整備する考えはないのか。

## 8 公園遊具事故への対応と維持管理

(1) 遊具事故防止のため、これまでにどのような取組を行ってきたのか。

(2) 公園の遊具の必要性についてどのように考えているのか。

(3) 現在、使用禁止となっている遊具は、いつになったら使えるようになるのか。また、撤去した遊具の再設置は、どのような考え方で進めていくのか。

(4) このマニュアルでは、遊具の安全性を確保する上で、どのような点に配慮したのか。

(5) これまで、遊具の利用者に対してどのような取組をしてきているのか。

(6) 横浜型遊具安全管理の取組とは、具体的にはどのようなものなのか。

1 古紙パルプ配合率偽装問題について

- (1) 紙製品の古紙パルプ配合率偽装問題について、どのように捉えているのか。
- (2) 本市が発注した紙製品について、古紙パルプ配合率の実態はどうか。
- (3) 既に納入された紙製品の取り扱いはどうなっているのか。
- (4) グリーン購入製品に対する信頼を回復するため、本市はどのように対応していくのか、阿部副市長に伺いたい。
- (5) 紙製品以外のグリーン購入製品についても、グリーン購入法の基準を満たしているかどうか確認する調査を実施しているとのことだが、その状況はどうか。
- (6) 今回の偽装問題を踏まえて、再生紙の取り扱いやRマークの表示など、グリーン購入に関する今後の方針について。

2 野毛山動物園のネーミングライツについて

- (1) 野毛山動物園でネーミングライツスポンサーの募集を行っているとのことだが、募集に至った経緯はどうか改めて聞きたい。
- (2) ネーミングライツスポンサー募集に関して、来園者の反応はどうか。
- (3) 募集条件を、5,000万円以上、5年間以上としたのはなぜか。また、期間延長に際し、金額等募集条件の変更は検討しているのか。
- (4) 命名権料が入らないことによる、野毛山動物園の管理運営費等予算への影響はどうか。

3 下水道の経営効率化（PFI）について

- (1) 消化ガス発電PFI事業の事業スキームはどのようになっているのか。
- (2) PFI事業化の進捗状況はどうか。また、今後の予定はどうか。
- (3) 事業契約に向け、課題は何か。
- (4) PFI事業化による経費削減効果はどうか。



#### 4 150万本植樹行動について

- (1) 150万本植樹行動は、どのような位置づけで取り組んでいるのか。また、20年度の目標本数はどうか。
- (2) 150万本植樹行動の目的について。
- (3) 室内やベランダの緑化を対象としているのはなぜか。
- (4) これまでの市民の参加・登録状況はどうか。
- (5) 今後、この取組をどのように拡大・発展させていくのか。

#### 5 ヒートアイランド対策について

- (1) 19年度にどのような調査研究を行っているのか。
- (2) 本市のヒートアイランド現象の特徴としてどのようなことが言えるのか。また、調査研究の成果をどのように施策に役立ててきたのか。
- (3) クールスポットがヒートアイランド現象の緩和にどのように役立つのか。また、どのようなものを開発するのか。
- (4) 20年度に開発するクールスポットの解析手法を、今後、どのように活用していくのか。
- (5) クールスポットの創設のために具体的にどのような対策を実施していくのか。
- (6) ヒートアイランド現象の緩和のために、今後、どのような施策展開を図るのか。  
(要望) 温暖化対策とともに、ヒートアイランド対策についても、今後とも、積極的に推進していくことを要望します。

#### 6 揮発性有機化合物対策について

- (1) 本市内における最近の光化学スモッグ注意報の発令状況はどうか。また、健康被害はどうか。
- (2) 光化学オキシダントの発生原因は何か。また、市内における光化学オキシダントの環境基準の適合状況はどうか。
- (3) 揮発性有機化合物とはどういう物質で、どういう用途に使われているのか。
- (4) 揮発性有機化合物に対する法的規制はどうなっているのか。
- (5) 30%削減に関して、基準年の12年度の排出量はどのくらいか。また、現在まで

に何%削減されているのか。

(6) 本市では揮発性有機化合物の排出を抑制するため、どのようなことを行っているのか。

8 市 野 太 郎 委 員 ( 民 主 党 )

1 ディーゼル車の運行規制及び低公害車の普及について

- (1) 運行規制に関して、どのような検査を行っているのか。
- (2) 条例が施行された時と最近の状況では、規制適合状況はどのように変化しているのか。
- (3) 運行規制の効果はどのように出ているのか。
- (4) 低公害車の普及状況はどのようになっているのか。
- (5) 天然ガス自動車の普及促進のため、どのような取組を行うのか。
- (6) ハイブリット自動車の普及促進に向けて、どのような取組を行うのか。
- (7) 低公害車の普及啓発として、どのような取組を行うのか。

2 瀬上沢地区の生物生息状況について

- (1) 環境科学研究所の設立目的と事業概要は何か。
- (2) この源流域水環境基礎調査の目的は何か。
- (3) 18年度にどの地域の減流域水環境基礎調査を行ったのか。
- (4) 今回の調査地区を含む円海山周辺緑地の規模はどれくらいか。
- (5) 調査地区の生物生息状況はどうなっているのか。
- (6) 円海山源流域は、今後とも大切にすべき自然環境と考えるが、環境創造局ではどのように捉えているのか。

3 (仮称) 上郷開発事業の環境アセスメントについて

- (1) 環境アセスメントの審議経過について。
- (2) 事業計画における、港南台9丁目に接続する区画道路の歩行者交通量が、準備書から評価書への審議の過程において変更されているが、なぜ、このように歩行者交通量が変わったのか。
- (3) 同じ事業計画を基に想定しているのに、なぜ、このように歩行者交通量が変わったのか。

- (4) 環境アセスメントの過程で、このように歩行者交通量が変わったことについて、どう考えているのか。
- (5) 今後の環境アセスメントの手続きはどうなっているのか。
- (要望) 局長には環境創造の視点及び立場に立って緑の保全について、事業者に対するより一層の踏み込んだ指導をしていただくよう要望します。

#### 4 下水道施設の更新事業について

- (1) 管きよの更新事業の概要について。
- (2) 管きよの更新事業の19年度における実施状況と、20年度の事業内容はどうかしているのか。
- (3) 管きよの更新事業の今後の取組について、どのように考えているのか。
- (4) 水再生センター・ポンプ場の設備の更新にあたって、どのような考え方で進めているのか。
- (5) 20年度の設備の更新予定はどのようになっているのか。

#### 5 きれいな海づくり事業について

- (1) 海域の環境改善にどのように取り組んでいるのか。
- (2) 18年度の海域の水質環境基準の達成状況はどうか。
- (3) 「きれいな海づくり事業」に取り組む目的は何か。
- (4) 山下公園前での実験の内容と進め方について。
- (5) 海域浄化実験の成果をどのように活かしていくのか。

## 1 八都県市における環境施策について

- (1) 地球温暖化問題に対し、八都県市が連携して取り組む意義について。
- (2) これまで八都県市でどのような地球温暖化に関する取組を行ってきたのか。
- (3) 19年秋の首脳会議では地球温暖化問題についてどのような提案があったのか。  
(要望) 提案を検討する際、座長である本市がイニシアティブを発揮し、充実した内容の八都県市の共同した取組につなげていただけるよう要望します。
- (4) 北海道洞爺湖サミットに向けて、八都県市でアピールしていく考えはあるのか。
- (5) 東京湾の水質の現状はどのような状況にあるのか。
- (6) 東京湾の水質改善に関連する法制度はどのようなものがあるのか。
- (7) これらの法制度に基づき、具体的にどのような取組をしているのか。
- (8) 八都県市として一斉行動を考えるべきと思うがどうか。

## 2 境川流域における河川新法の適用について

- (1) 特定都市河川の指定を受け、更なる浸水対策の促進が必要ではないかと考えるがどうか。  
(要望) 境川流域について市民の安全・安心を確保していくため、関係部局と連携し鶴見川流域同様に、特定都市河川の指定を受け、より安全で確実な浸水対策を進めるよう要望します。
- (2) 指定に伴い策定する流域水害対策計画では河川の整備目標水準はどのくらいに設定するのか。
- (3) 19年度末での瀬谷飯田雨水幹線流域の浸水解消に向けた整備状況について。
- (4) 流域の中で特に浸水被害の大きかった上瀬谷・中屋敷・本郷地区の整備状況及び今後の具体的スケジュールについて。
- (5) あと数年運用することになる大門暫定ポンプ施設の状況については問題ないか。
- (6) 効率的な浸水対策を進めるための国庫補助金の導入を考えるべきと思うがどうか。

### 3 光害対策について

- (1) 光害とは、どのように定義されているのか確認したい。
  - (2) 19年度、光害対策について、どのような検討を行ったのか。
  - (3) 具体的な調査内容はどのようなものか。
  - (4) なぜ、広告照明であるLED看板に絞って調査を行ったのか。
  - (5) 調査結果はどうだったのか。また、今後はどのようにガイドライン等に反映するのか。
- (要望) 市独自のガイドラインの策定については他都市でも例がないことから是非横浜が率先して取り組み、市民生活向上のためにも早期実現できるよう要望します。
- (6) 光害対策を含め適正な夜間照明環境について、まちづくりの中で、総合的に行うことが重要であると考えますがどうか、阿部副市長に伺いたい。

### 4 西部水再生センターの事故と安全対策について

- (1) 西部水再生センターの事故はどのような事故であったのか。また、事故後の本市の対応と被害者との話し合いの状況について。
- (2) 竣工図と現場では、どのような違いがあったのか。
- (3) 一般的な請負工事の発注から完成までのフローはどのようなものか。また、変更する場合の手続きではそれがどこに反映されるのか。
- (4) 一般的な請負工事の手続きフローや工事請負契約約款を踏まえ、竣工図と現場の違いをどう認識しているのか。
- (5) 竣工図と現場の違いについて、今一度局長の認識を伺いたい。
- (6) そのような違いを含め、「安全対策検討委員会」では、どのような調査・検討が行われたのか。
- (7) 本来、「原因究明」と「安全対策の立案など」は、一緒の委員会でやるべきだと思うがどうか。
- (8) 今後、どのような調査をしていくのか。
- (9) 外部委員会の議事録の作成方法はどうか。また、今後はどのように対応するのか。
- (10) 国では、どのような対応をしているのか。

(11) 本市の今後の安全対策をどのように進めるのか。

## 5 バイオディーゼルの活用について

(1) 廃食用油をバイオディーゼル燃料に精製し、活用するに当たっての技術的水準についてどう認識しているのか。

(2) 他都市での取組事例について。

(3) バイオディーゼル燃料の普及に向けて、本事業をどのように市民にPRしていくのか。

(4) 地球温暖化対策を進めるため、バイオ燃料の普及について、どう考えているのか。

(5) 温暖化対策の推進にあたって高齢者の方々の力を生かせる場としてはどのようなものがあるのか。

(6) これまで子供に対する温暖化対策の啓発の取組としてどのような取組を進めてきたのか。

(7) 脱温暖化を担う人材育成について、これまでどのような取組を行ってきたのか。

また、脱温暖化行動を担う人材を育成するための課題は何か。

(8) 今後どのように人材育成を進めていくのか。